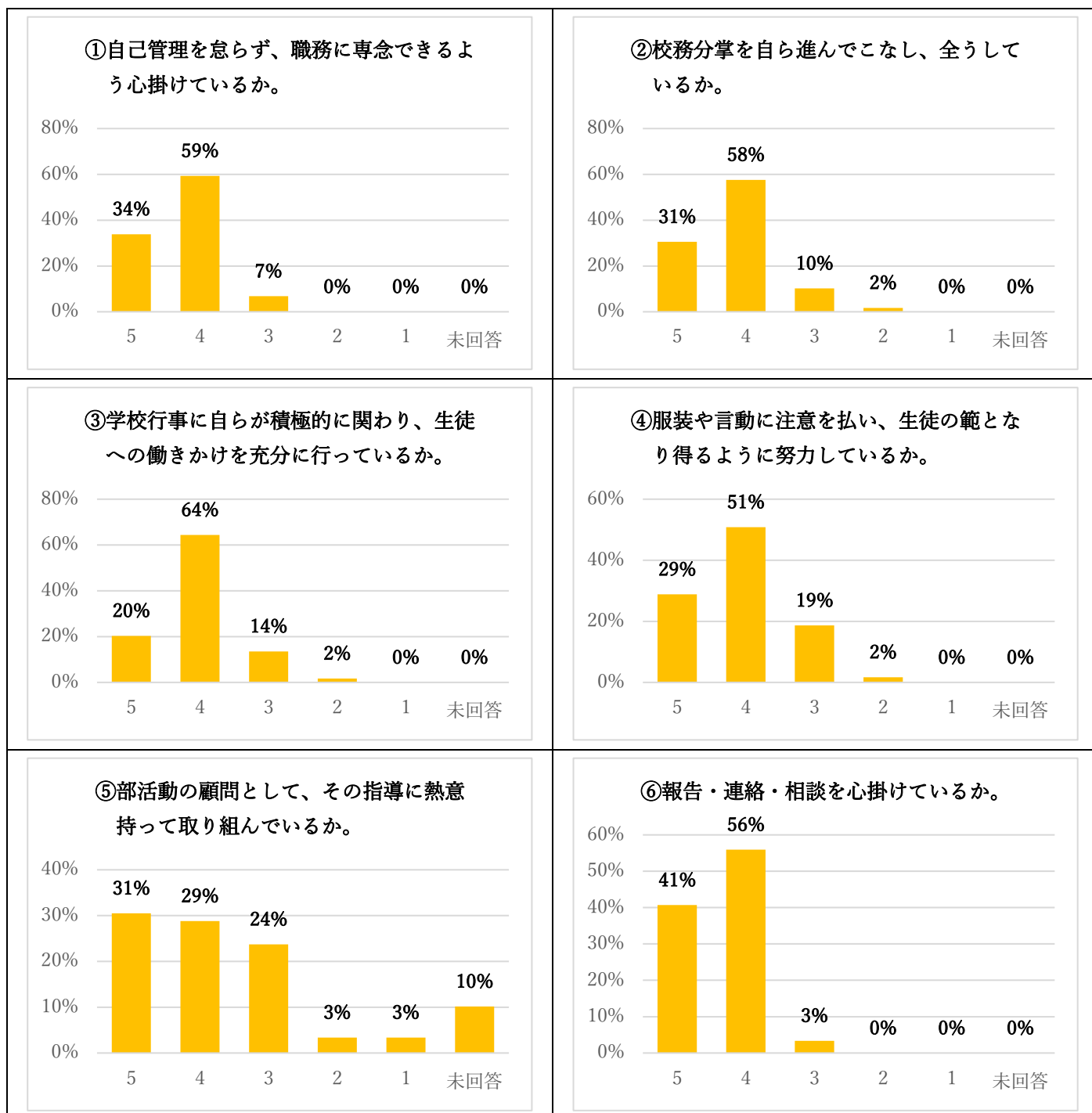


令和元年度 学校評価アンケート 自己評価（教職員）

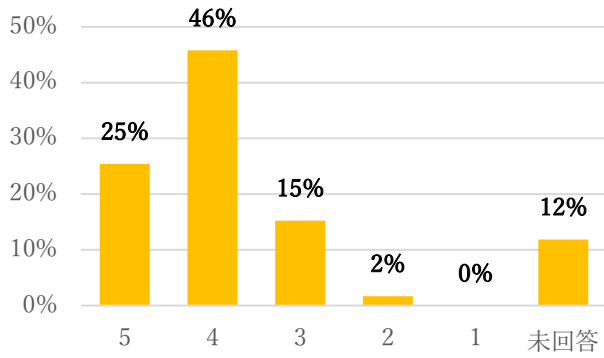
5. そう思う 4. だいたいそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. そう思わない

※今年度より事務職員については①・②・③・④・⑥・⑱・⑳についてのみ回答しています。

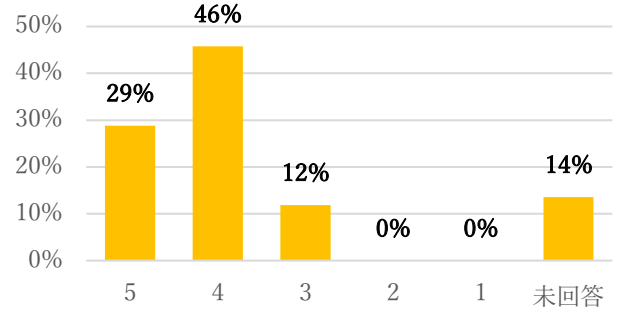
したがって、それ以外の質問は未回答が増加しています。



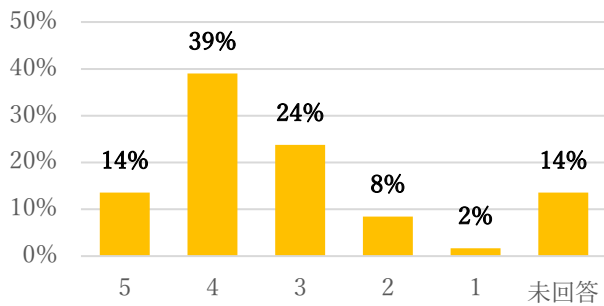
⑦教材研究を熱心に行っているか。



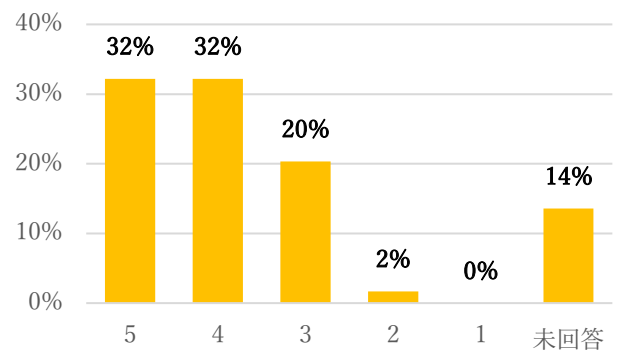
⑧わかりやすい授業を心掛け、授業展開に工夫を凝らしているか。



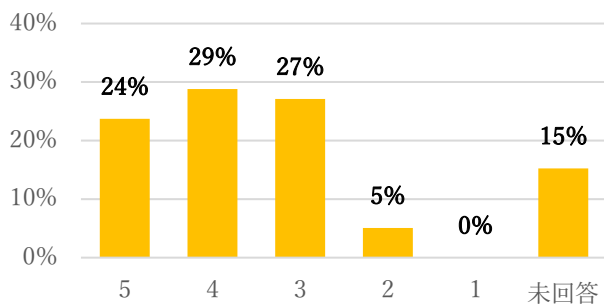
⑨適切な教材及び機器の活用に努めているか。



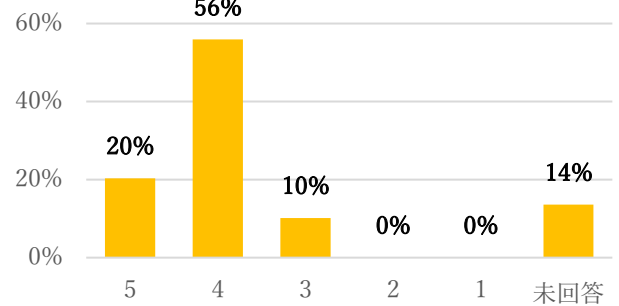
⑩時間厳守で授業にのぞんでいるか。



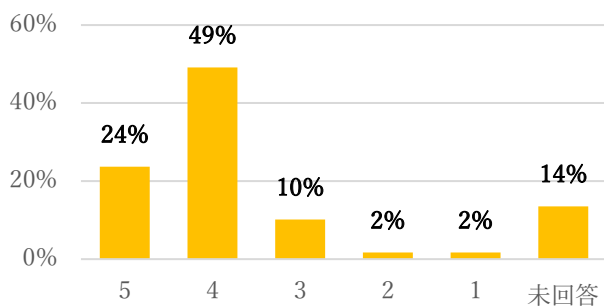
⑪課題を与えたり、小テストを適宜実施しているか。



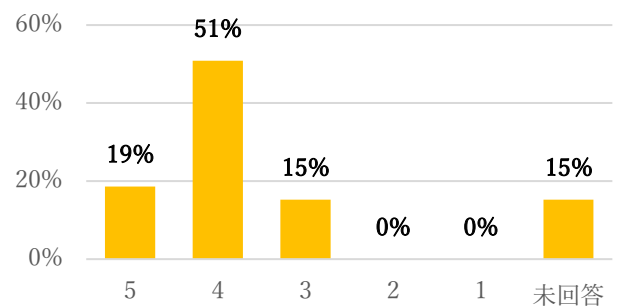
⑫公平さと共に、各人の能力に配慮をした発問や授業展開をしているか。



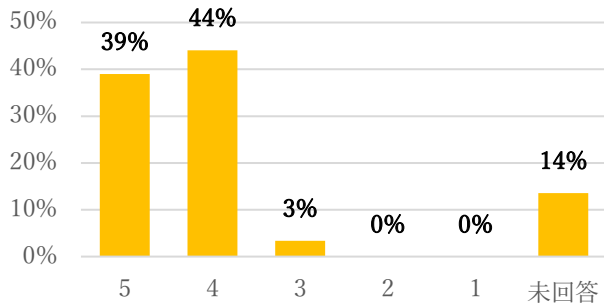
⑬授業の取り組みが出来ていない生徒を指導しているか。



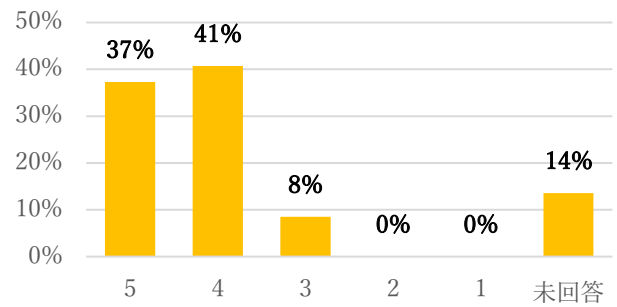
⑭教室全体を把握することや、机間巡視に心掛けているか。



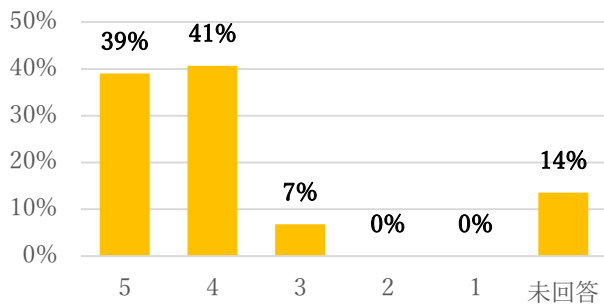
⑮生徒への声掛けや挨拶など、積極的にコミュニケーションをとっているか。



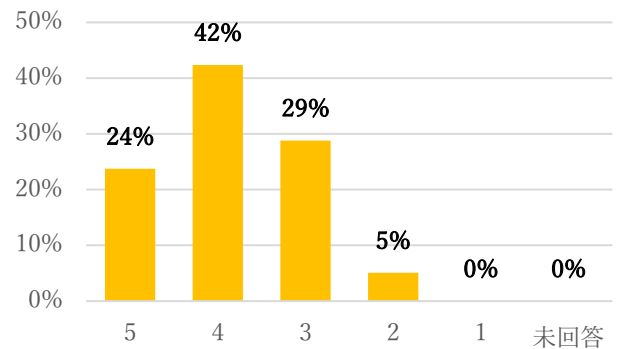
⑯生徒のわずかな変化にも気づこうと、日常を心掛けているか。



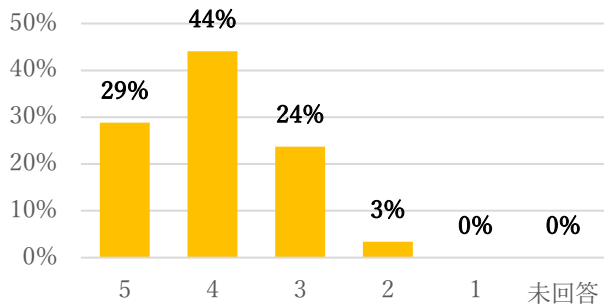
⑰感情に任せて生徒を叱ったり、罵倒することがないように充分心掛けているか。



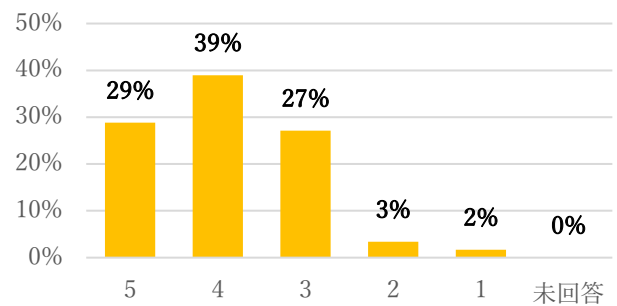
⑱身の周りの整理整頓の指導は出来ているか。



⑲服装の乱れや、言葉遣い(ため口等)に対して指導が出来ているか。



⑳保護者への周知・協力など連携に努めているか。



○“質問1”について回答(5・4)が93%。

○“質問2”について回答(5・4)が89%。生徒に関わる事項も多数校務分掌には含まれているため、決して疎かにしてはならない。職員同士の声掛けも行い、全員で全うできるように心掛けたい。

○“質問3”について回答(5・4)が84%。私達の職務は全て生徒のためである。その生徒が活躍する学校行事において、関わり・働きかけが乏しいということは決してあってはならない。今後職員一人ひとりが意識をして取り組まなければならない。

○“質問4”について回答(5・4)が80%。昨年度は、57%だったため、今年度は職員の意識が大きく変わったところではないだろうか。生徒は、職員の姿・立ち振る舞いを見て真似しようとすることもある。全職員が努力できるよう声掛けをしていきたい。

○“質問5”について回答(5・4)が60%。本校には、スポーツ奨学生及び文化奨学生を擁する強化部・準強化部が活発に活動しているが、その他、部・同好会にも多くの生徒が活動している。継続的かつ効率的な活動ができるように顧問は努力をしなければならない。

- “質問6”について回答（5・4）が97%。
- “質問7”について回答（5・4）が71%。教科指導は、学校現場において要である。ここは、常に100%を目指さねばならない。また、教材研究ができる環境を整えていくことも必要である。継続的に働きかけを行っていく。
- “質問8”について回答（5・4）が75%。生徒達が目標とする点数が取れるように指導するとともに、生徒達に「最低限ここまでは理解してほしい」という私達の目標も必要である。それを実践するためには授業の工夫が重要である。授業力向上のために研究授業等は現在も実施しているが、今後も継続し、より質の高い授業が展開できるよう努めたい。
- “質問9”について回答（5・4）が53%。毎年度、適切な教材の選定を行う。そのために、教科ごとに選定会を実施し、教師間でのアイデア提示を含めた検討を行う。
- “質問10”について回答（5・4）が64%。授業は50分と限られている。時間は有限であり、無限ではない。授業時間というものをまずは教師が大切にしたい。また、時間を守るということは、生徒達が社会に出てから、必要とされる基本的な資質である。これを、教師自ら疎かにすることがあってはならない。
- “質問11”について回答（5・4）が53%。生徒が授業内容を知識としてきちんと身に付けられているか、定期考査だけではなかなか見えにくい部分である。日頃、小テストや課題を課し、復習・反復することで確実に生徒が理解し学力を付けるようにしたい。また、定期考査では生徒自身が成長することができた実感できる機会としたい。
- “質問12”について回答（5・4）が76%。クラスには、十人十色の生徒が在籍している。同じ内容の授業でも、クラスが変われば展開の仕方を工夫するべきであるし、教師の一方的・偏執な授業展開であってはならない。生徒の理解力に応じた発問を交えての授業展開を目指しているところではあるが、(3)の10%という数値は決して低いものとは捉えず、今後全ての教師が(4)さらには(5)を選択できるようにしていく。
- “質問13”について回答（5・4）が73%。生徒の学校に在籍する意義は授業である。その取り組みが出来ていない生徒を見逃してしまうことは、大きな問題である。様々なアプローチをかけて授業にしっかりと取り組んでいけるよう指導していきたい。
- “質問14”について回答（5・4）が70%。事務職員の未回答を除くすべての教員が(3)以上を選択している。今後この数値を維持、更には向上できるよう継続していきたい。
- “質問15”について回答（5・4）が83%。教師の指導の対象は生徒である。コミュニケーションを図ることは必須であり、教育現場を推進力を持って進めていくためにはとても重要である。100%を目指し、今後も活動していく。
- “質問16”について回答（5・4）が78%。生徒にとって、学校生活では毎日様々な出来事が起きている。全ての出来事が生徒個人にとって有益に働くとは限らない。情緒不安定になり、不登校につながる恐れなどもあることから、教師は教科指導だけではなく、生徒のわずかな変化に気を配るべきである。そういった意味でも、より高い数値になるよう努めなければならない。
- “質問17”について回答（5・4）が80%。教師の発言は生徒に大きな影響を与える。15歳から18歳は多感な時期で、教師の発言により大きな傷を負わせかねない。そうならないためにも、さまざまな研修会や講演会に積極的に参加し、多様な場面に対応できるよう指導力を高めなければならない。
- “質問18”について回答（5・4）が66%。学習に集中して取り組める環境を作るためにも、身の周りの整理は重要である。生徒の成績向上のためにもしっかりと指導していきたい。
- “質問19”について回答（5・4）が73%。コミュニケーション能力を高めるためにも、今後十分な指導をしていきたい。
- “質問20”について回答（5・4）が78%。生徒の指導内容は多岐にわたり、学校だけでは、把握・管理ができないことも多くある。生徒を成長させるためには、教職員だけではなく、保護者との連携も必要不可欠である。

全体的に、全質問（5・4）の割合が（3・2・1）に比べて高くなっている。各職員が高い意識で業務に臨んでいる結果である。一方、回答（2・1）と自覚している職員がいることも事実であり、早急に対応せねばならない。良い指導を行っていくためには、まずは、指導する側がきちんとした意識を持つことが大事である。